国際日本文化研究センター主催国際研究集会
「世界史のなかの明治／世界史にとっての明治」
実施要綱

事業実施責任者：瀧井一博（国際日本文化研究センター・教授）

開催日時：平成３０年１２月１４日（金）　～　平成３０年１２月１６日（日）

会場：国際日本文化研究センター

使用言語：日本語または英語。ディスカッションは日本語。

発表時間の目安：報告は 20 分、コメントは 10 分、ラウンドテーブルでの問題提起は 15 分。

後援：東芝国際交流財団、社会科学国際交流江草基金、サントリー文化財団、上廣倫理財団

※本国際研究集会は、平成３０年度科学研究費助成事業補助金（科学研究費補助金）基盤研究（Ｂ）「明治日本の比較文明史的考察-その遺産の再考-」（課題番号：16H03469）の助成を受けたものです。

※本国際研究集会は、日文研共同研究会「明治日本の比較文明史的考察」の平成３０年度共同研究会の一環として開催されます。

開催趣旨

本年度は明治維新 150 年にあたる。「坂の上の雲」を目がけて疾駆した時代は、日本近代史上の青春時代として今なお深い思い入れをもって回顧される。だが、すでに青春期を過ぎ、空前の成熟社会ないし老成社会に入ろうとしている今日、また近隣諸国との間に深刻な摩擦を抱えている現下の状況において、そのような懐旧の念のみでこの時代を振り返ることは、かえってこの社会が直面している諸問題に目を閉ざす結果にならないかと危惧される。

明治 150 年を機として日本の近代化の歩みを振り返るに当たってより生産的なのは、明治日本の歴史を単に日本国民の歴史として終わらせるのではなく、その世界史的な意義を国際的に発信していくことであろう。西洋文明の圏外に属していたひとつの国家が、西洋文明に由来する価値観や制度を受容し、その定着に大きな成果を収めて近代化を達成した。そのことが極めて稀有な人類の歴史的経験であることは疑いの余地がない。日本は西洋文明の普遍性や近代化の功罪を自らの歴史を踏まえて国際的に発言できる特権的な立場にある。新たに国家建設に携わろうとする世界中の人々に対して、日本は自らの近代化の成功と失敗を理論化して伝える責務を有しているとすら言える。

以上の点を念頭に置き、明治日本の世界史的意義を討議するための国際シンポジウムを開催する。すでに国際日本文化研究センターでは、本事業の実施責任者である瀧井がプロジェクト・リーダーとして、「明治日本の比較文明史的考察」と題する共同研究会を 2015 年度から行ってきた。そこでは、明治を可能とした思想と条件を内外の視点から複眼的に考察し、人類社会の遺産として明治を考え直すことが課題とされている。本シンポジウムは、その集大成として、これまでの共同研究の成果を広く海外の日本研究の潮流と接合することを企図して開かれるものである。そのために、世界各地域から第一線で活躍する研究者を招聘し、日文研において共同討議の場を設ける。

明治日本の再現を唱えるのではなく、それを終わった歴史として客観化すると同時に、そこから人類社会の発展に寄与できるような知的資源を抽出するためのアカデミズムの国際的連携の場となることを目指したい。

世界史のなかの明治／世界史にとっての明治

12 月 14 日（金）
10:00-12:00 レジストレーション

12:00-13:00　ランチ・ミーティング

13:00-13:10　主催機関長挨拶：**小松和彦**（日文研）

13:10-13:40　本シンポジウムの趣旨：**瀧井一博**（日文研）

13:40-15:10　セッション①
「世界とつながる明治日本」
司会：**牛村圭**（日文研）
報告
ジラルデッリ青木美由紀（イスタンブル工科大学　トルコ）：「亜細亜東西合わせ鏡：オスマン帝国官僚ムスタファ・ビン・ムスタファの見た明治と明治の官僚渡辺洪基の見たオスマン帝国」
ロバート・ヘリヤー（ウェイクフォレスト大学　USA）：「世界史における明治維新：内戦の”Postwar”の日米比較」
蔡龍保（台北大学 台湾）：「明治期日本人の鉄道技術者集団の海外進出―台湾を例に」
コメント：**ランジャナ・ムコパディヤーヤ**（デリー大学　インド）

15:10-15:30　コーヒーブレイク

15:30-17:00　セッション②
「革命のグローバル史のなかの明治維新」
司会：**三谷博**（跡見女子大学／東京大学名誉教授）
報告：
深町英夫（中央大学）：「中国革命派の明治維新観：孫文を中心に」
朴薫（ソウル大学　韓国）：「“封建社会”―“郡県社会”と東アジアにおける近代；明治維新の捉え方と関連して」
マーク・ラヴィーナ（エモリー大学　USA）：「１９世紀の革命としての明治維新」
コメント：**酒井啓子**（千葉大学）

17:15-18:15　特別講演　**伊藤之雄**（京都大学名誉教授）：「日本の近代化と公共性・天皇制」

18:30-　ウェルカム・パーティー

12 月 15 日（土）

9:30-10:15 基調報告　**ジャネット・ハンター**（ロンドン・スクール・オブ・エコノミックス　イギリス）：「明治日本と世界経済との関係：情報通信の組織化」

10:30-12:00　セッション③

「「文明」国の諸相」

司会：**加藤雄三**（専修大学）

報告

ジョン・ブリーン（日文研）：「明治天皇の勲章外交：1868 年―1894 年」

劉岳兵（南開大学　中国）：「「文明」として近代中国に輸出された「明治維新」」

マーガレット・メール（コペンハーゲン大学　デンマーク）：「「文明」国の音楽：四竈訥治と『音楽雑誌』を中心に」

コメント：**大久保健晴**（慶應義塾大学）

12:00－13:00 昼食

13:00－14:30　セッション④

「明治の大衆文化」

司会：**松田宏一郎**（立教大学）

報告

石上阿希（日文研）：「春画をみつめる眼―大衆・近代・西洋」

古川綾子（日文研）：「日露開戦と日本喜劇の誕生」

アリステア・スウェール（カンタベリー大学　ニュージーランド）：「明治初期における戯作の遺産と文明開化への寄与」

コメント：**細川周平**（日文研）

14:30－16:00　セッション⑤

「公共性の変容」

司会：**塩出浩之**（京都大学）

報告：

前田勉（愛知教育大学）：「公議輿論を生んだ読書会の公共性」

ダリル・フラハティ（デラウェア大学　USA）：「代言人と公共性の比較史的再検討」

奈良勝司（立命館大学／日文研）：「幕末維新期の『公議』―近代国家建設における一致・統合・動員の観点から―」

コメント：**磯田道史**（日文研）

16:00-16:30　コーヒーブレイク

16:30－18:00　セッション⑥
「ローカルからの明治史」
司会：**勝部眞人**（広島大学）
報告
マーレン・エーラース（ノースカロライナ大学　USA）：「地域社会の固有性と普遍性－明治維新前後の越前大野を例に－」
デーヴィッド・ハウエル（ハーバード大学　USA）：「明治維新期における統治性」
一坂太郎（萩博物館）：「人物評をめぐる政治と学問」
コメント：　**中村尚史**（東京大学）

12 月 16 日（日）国際日本研究の課題としての明治
10:00－12:00　セッション⑦
世界は明治をどう見たか／見ているか
司会：**上野景文**（元駐バチカン大使）
報告
ハルブ・ハサン（カイロ大学　エジプト）：「近代エジプトにおける明治日本―『東方の太陽』を中心に―」
グエン・ニュー（ホーチミン市人文社会学大学　ベトナム）：「明治維新に関するベトナムの近年の研究関心」
黄自進（中央研究院　台湾）：「中国近代化モデルとしての明治維新像：孫文と蒋介石の日本認識の比較を中心に」
スージー　オング（インドネシア大学　インドネシア）：「1930 年代の日本とインドネシア：インドネシア知識人と「日本精神」」
コメント：**永井史男**（大阪市立大学）

12:00-13:00 昼食

13:00-16:15　総括セッション「国際日本研究の課題としての明治」
13:00-14:00　特別講演　**北岡伸一**（東京大学名誉教授／JICA 理事長）：「明治維新と現代」

14:00-14:15　休憩

14:15-16:15　ラウンドテーブル「国際日本研究の課題としての明治」
司会：**清水唯一朗**（慶應義塾大学）
問題提起：**井上章一**（日文研）、**ハラルド・フース**（ハイデルベルク大　ドイツ）、**セルチュク・エセンベル**（ボガジチ大学　トルコ）
コメント：**長尾龍一**（東京大学名誉教授）

18:00－20:00　フェアウェル・パーティー